

～大分・宇佐養蚕資料～

古代中国で養蚕開始 (伝説の帝・黄帝の妃が発見という)  
前漢の武帝(前159～前87)の頃、西方諸国と絹交易が始まる  
弥生時代 北部九州に中国より養蚕が伝わる

文禄6年刊「節用集」に当時の蚕糸国2ヶ国の中に豊前・豊後有り  
享和年間 佐田村加来勝太郎・安心院村加来格太郎宅に桑の古木  
嘉永2年 安心院村柳瀬伴左衛門 黄繭二斗余りを得る

このころヨーロッパ蚕病流行

安政6年 生糸輸出開始 49万斤 (開国前の生産高150万斤)  
万延元年 生糸輸出81万斤 文久2年 241万斤 養蚕盛んになる  
明治2年 駅館村永松貞民 養蚕・製糸  
明治13年 宇佐町 麻生齊二 宇佐養蚕会社を組織  
明治16年 「土族の授産は養蚕製糸を第一とす」福沢諭吉の論説  
明治18年 下毛、宇佐、東西国東、速見の連合品評会  
明治20年 下毛郡1社、宇佐郡5社の製糸場有り(『大分県の百年』より)  
明治28～30年 鷹居、馬城、柳ヶ浦製糸株式会社創設  
明治35年 柳ヶ浦製糸、豊中製糸(中津)柳ヶ浦分工場となる

(『大分県蚕糸業史』芦刈蘭一編より)

養蚕戸数	明治31年	大正6年	昭和8年	昭和21年	昭和26年
宇佐	2,241	5,207	7,616	4,129	1,853
大野	4,351	6,076	6,855	5,144	2,198
県総数(戸)	23,678	38,404	49,729	23,147	9,555
桑園面積					
宇佐	573	1,089	1,890	440	327
大野	612	903	1,451	525	363
県総数(町)	3,035	5,619	10,235	2,276	1,577
繭生産量	単位(石)	単位(石)	単位(百貫)	単位(百貫)	単位(百貫)
宇佐	2,349	15,153	2,982	317	199
大野	2,543	12,630	2,463	447	308
県総数	12,717	75,456	17,703	1,606	1,063

大正2年 馬城製糸所を片倉組が買収 9年片倉製糸紡績宇佐製糸所  
(宇佐の2工場で繭25万貫を消化 『宇佐市史』中巻より)

大正12年 大分県立四日市農学校(現 宇佐産業科学高校)に養蚕科

昭和4年 養蚕戸数最大 52,354戸

昭和5年 桑園面積最大 11,019ヘクタール

昭和8年 繭生産量最大 1,770,222貫、生糸生産量最大 195,660貫

(『大分県蚕糸業史』芦刈蘭一編より) この時宇佐県内一

昭和16年 神栄製糸(豊中製糸柳ヶ浦分工場)閉鎖

昭和28年 機械生糸製造業者 片倉製糸宇佐製糸所(200台)岩崎

機械座繰業者 森本製糸所(6釜)樋田

玉糸製造業者 森本製作所(2釜)樋田

普通座繰業者中島(4釜)中島(2釜)上高家、井上(1釜)身深(1釜)ゴウ、  
北(1釜)法鏡寺、今永(3釜)江須賀、伊藤(3釜)横田

(『繭検定所の歩み』大分県繭検定所より)

昭和35年 片倉宇佐製糸所 閉鎖

昭和36年 四日市農業高等学校 養蚕科募集停止

現在養蚕は行われていない

# 宇佐の産業展

～養蚕の昔と今～

ごあいさつ

もしも「蚕」がいなかったら?  
絹という繊維はなく、着物もなかったでしょう。  
シルクロードは存在せず、歴史や文化は今と全く違うものになっ  
ていたに違いありません。

歴史上、これほど影響力をもった虫は他にいないでしょう。  
世界史、近代日本史を語る上でも養蚕を欠かすことはできません。  
昭和50年代まで日本は世界最大の生糸輸出国でしたし、  
今も世界トップの養蚕技術を誇っています。

宇佐は大分県最大の養蚕地帯でした。高校には養蚕科があり、  
大規模な工場もありました。

人間は蚕を家畜化し、改良し、大切に育て、家蚕は自然界では  
生きていけない虫になってしまいました。しかし、今は蚕を  
目にする事すら稀です。

現在、蚕は遺伝子資源として保存され、繊維以外にも様々な  
用途に研究が行われています。今回の展示では昔の蚕糸業の様  
子と、今の蚕関係の取り組みについて展示しています。

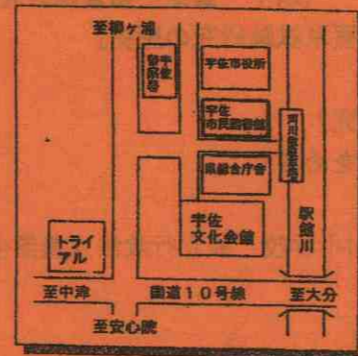
歴史を通じて蚕について考える契機になれば幸いです。

今回の展示では独立行政法人農業生物資源研究所、大分県立  
歴史博物館、大分県立宇佐産業科学高校、宇佐市立豊川小学校、  
後藤あやめさんにご協力をいただきました。

この場をかりてお礼申し上げます。

2006年12月2日

宇佐市民図書館  
渡網記念ギャラリー



平成18(2006)年12月2日 / 発行・宇佐市民図書館  
大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600  
URL.http://www.usa-public-library.jp/

# 宇佐の産業展

～養蚕の昔と今～



養蚕草 関利 筆

『かみこやしなひ草』東京農工大付属図書館 刊より

2006.12.2 ～ 2007.2.25

10:00～18:00 (日曜のみ ～17:00)

休館日…毎週月曜日・祝祭日・月末木曜日・年末年始

宇佐市民図書館  
渡網記念ギャラリー

## 出展目録

### 宇佐の産業展 ～養蚕の昔と今～

#### ～時代で見る養蚕の変化～

江戸・明治・昭和の養蚕を浮世絵と写真で紹介

江戸時代の養蚕風景 「かみこやしなひ草」勝川春章(1786)『かみこやしなひ草』より	24枚
明治時代の養蚕風景 「皇国養蚕図会」梅窓幾英(1885)『かみこやしなひ草』より (東京農工大学附属繊維博物館所蔵 同図書館提供)	20枚
昭和の養蚕風景 (アテネ・フランセ文化センターより展示許諾) 「牧野物語 養蚕編」小川プロダクション(1977)	13枚
	(57点)

#### ～養蚕は一番の産業～

大正12年から昭和37年まで存在していた養蚕科、  
宇佐を支えた養蚕業・製糸工場

桑鉢植え	1鉢
蚕祖神 ※(県立歴史博物館保管)	1体
『蚕祖神』 小野忠夫 著	1冊
「宮中養蚕図」翠軒竹葉(1886)『かみこやしなひ草』より (東京農工大学附属繊維博物館所蔵 同図書館提供)	3枚
『明治大正昭和宇佐』 今戸公徳 著	2冊
『養蚕』1・2・3 (昭和21年の教科書)※	3冊
『蠶病教科書』 (昭和6年の教科書)※	1冊
『蚕糸界を荷う三千人』(昭和31年中央蚕糸協会情報部)※	1冊
『蠶桑技術相談』(昭和24年農林省)※	1冊
『養蚕と桑づくり』(昭和30年 農文協)※	1冊
『蠶具大鑑 全』(大正12年明文堂)※	1冊
『学習指導要領』(昭和26年 理科)※	1冊
『蠶兒免疫論 全』(明治36年 丸山舎本店)※	1冊
『通俗養蠶講話』(明治41年 明文堂)※	1冊
『養蠶学』(昭和15年 弘道館)※	1冊
『栽桑』(昭和36年の教科書)※	1冊
『最新改良條桑育蠶法』(明治44年 丸山舎)※	1冊
『通俗養蠶講義』(大正12年 明文堂)※	1冊
『蠶絲学講座』(明治15年 明文堂)※	1冊
『実用蚕糸学』(昭和32年 蚕糸の光出版部)※	1冊
『蠶室蠶具学 全』(明治44年 勸業書院)※	1冊
『日本桑樹栽培論』(昭和4年 明文堂)※	1冊
『明治蠶業大事記』(昭和12年 大日本蠶業学会)※	1冊
『実験蠶の品種改良 全』(大正8年 明文堂)※	1冊
『実験 蠶種製造論』(明治45年 丸山舎)※	1冊
『蠶系年鑑』(昭和24年、36年)※	2冊
『真綿』(日本真綿協会)	1冊
『大分県蚕糸業史』(芦刈蘭一 編集)	1冊
『郷土誌北馬城の昔をたずねて』(北馬城の昔をたずねる会 刊)	1冊
協力 宇佐産業科学高校(※印)	(計 35点)

#### ～身近にあった道具たち～

今では目にすることが少なくなった養蚕・製糸具たち

桑籠(1) 桑(パネル1) #	2点
『八方にらみねこ』(講談社)、『百年前の日本』(小学館)	2冊
種紙(2種1枚・3枚)#	4枚
蚕網(2) # まぶし(2)	4点
繭(実物) 《個人蔵》	1点
毛羽とり機(1) # 糸繰り機(1) 《個人蔵》	2点
給桑台(1) # パラダ(2)	3点
『モースの見た日本』(小学館)、『日本の手仕事』	2冊
糸車(1)・糸枠(3)(生糸・精練した生糸・紬糸) 《個人蔵》	4点
箴(2)・小管(2)・杼(2) 天蚕糸織物 《個人蔵》	7点
生糸(2、化学繊維染め2、草木染め3)、紬糸2 《個人蔵》	9点
機織り機(パネル2) #	2枚
着物 《個人蔵》	1枚
協力 大分県立歴史博物館(※)・宇佐市文化課	(43点)

#### ～現在と未来の蚕～

宇佐市の小学校で行われている蚕飼育の様子と、新しい研究

『皇后さまの御親蚕』(扶桑社)、『かいこの絵本』(農文協)	2冊
繭(ウスタビガ、蚕、クスサン、天蚕) 《個人蔵》	4点
天蚕糸100%の織物 《個人蔵》	1枚
豊川小蚕飼育風景(額入り)、写真パネル	2枚
『大分県蚕糸業史』より大正元年の宇佐郡養蚕統計	1枚
豊川小天蚕飼育日誌(生徒許諾済み)	10枚
蚕の一生パネル(1) 天蚕写真(3)	4枚
蚕と天蚕の比較(各1)	2枚
(以下 農業生物資源研究所 提供)	
『農林水産省における蚕糸試験研究の歴史』	1冊
『昆虫機能利用研究』	1冊
『昆虫テクノロジー研究』	1冊
『シルクの新しい利用をめざして』	9冊

協力 宇佐市立豊川小学校 独立行政法人農業生物資源研究所  
(38点)

#### ～階段部分～

「七福神蚕やしない」(国輝 1871)『かみこやしなひ草』より	3枚
(東京農工大学附属繊維博物館所蔵 同図書館提供)	
天蚕・機織り関係写真 (豊川小学校 実践・提供)	8枚
	(11点)

総合計 184点

## 資料提供などご協力頂いた機関紹介

登場順

### 東京農工大学附属繊維博物館 同図書館

東京農工大学工学部の前身は内務省勸業寮内藤新宿出張所 蚕業試験掛。そのため、附属繊維図書館には養蚕に関する資料が多くある。故鈴木三郎名誉教授が集めた養蚕錦絵を所蔵。インターネット上に公開、『かみこやしなひ草』として出版。今回、『かみこやしなひ草』を寄贈・展示などの許可を頂きました。

### 小川プロダクション

ドキュメンタリー映画監督小川紳介主催のプロダクション。三里塚シリーズなどがある。山形県上山市に移転し「牧野物語」も撮影。1992年小川監督死去。1994年プロダクション解散。

### アテネ・フランセ文化センター

語学学校「アテネ・フランセ」に附属する。130席ほどのホールもあり、映像メディアの芸術学講座「映画美学」も開講。「牧野物語 養蚕編」上映など著作権管理もしている。今回はシナリオの写真使用について許可を頂きました。

### 宇佐産業科学高等学校

明治34年宇佐郡立農学校として開校、百年以上の歴史を誇る実業高校。大正12年より大分県立日田農林学校より養蚕科を移転開設。校名の変遷、科の増減を経て、現在は農業経営科、農業土木科、電子機械科、生活デザイン科の4科がある。今回、養蚕関係資料の一部をお借りして展示しました。

### 大分県立歴史博物館

昭和56年大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館として開館。平成10年大分県立歴史博物館として、保存スペースの拡充、新常設展示もオープン。企画展を開催するなど、文化財保護研究センターとして、様々な学習機会を提供している。一昨年「ちょっと昔の道具たち」で養蚕、織り機などを展示。

### 宇佐市立豊川小学校

小学校3・4年生理科の授業「昆虫」などの単元でこの6年ほど天蚕飼育を行っている。飼育が難しいといわれる天蚕だが、今年度はほぼ全てが繭になった。今回は観察写真・観察記(児童に許諾済み)にご協力いただきました。

### 独立行政法人 農業生物資源研究所

(農林水産省蚕糸試験場、蚕糸・農業技術研究所が前身) 農業の生産性向上、新たな需要の創出、新生物産業の創出などを旨とする研究所。各種シンポジウム開催やデータベースの公開、インターネットで出前授業など新たな試みも。今回は資料を寄贈していただきました。

#### ～興味のある方は上記ホームページの他に～

蚕データベース (信州大学繊維学部)714種を繭の色からも検索  
<http://texsys.sakura.ne.jp/silk/image.php> 三浦・森川 研究室  
このデータベースのデータ提供源は農業生物資源研究所